

「そろばん繪」のある梵鐘

岐阜県原田博

昭和五十八年（一九八三）六月，東京そろばん資料館落成式の後，下平和夫教授に，東京雑司と谷の鬼子母神の法明寺のご案内を頂いた。

鈴木久男教授から，京都法性寺にもあることをお聞きしてその年八月に生徒と見學に行つた，和尚様からいろにろ教えられ，まだ他にもいくつかある事がわかり各地見て歩いた。

1. 法明寺（ほうみょうじ）東京都新宿區

寺傳によれば 弘仁元年（810）創建され、源氏代マの祈禱所であつた。梵鐘は寛永二十一年（1644）に鑄造され，後破損したので，享保十七年（1732）再鑄された。下帯の部分に，算盤，斗搔トカキ（註）杵、曲尺、銀秤，か順に並んで陽鑄（浮き出し）されている。五珠一、一珠四つ、六桁です。そろばんが九つもついています。（庶民の日常生活の經濟面の基準として，最も重要性、密着性の高いものから順に配列してある。との説もある。）圖一

（註）斗搔一升に盛つた穀類を、升の縁なみに平らにならす短い棒。「ますかき」という。

2. 法性寺（ほつしようじ）

この寺で俗に「猿寺」とも呼ばれる日蓮宗のお寺で，元鎌倉にあつたが，三百年位前に京都へ移築された，日蓮上人が鎌倉時代山で修業中，群猿に助けられたことから，現在で 本堂の屋根に猿が祀られている。

梵鐘は，法明寺より少し小さく，そろばんは四つに區切られた池の間（胴）の一區に一丁だけ。五珠一つ。つ珠五つ。十一桁。他の一區に日、月、七星、雲。次の區に須彌山（しゆみせん）。次の區に、桀、曲尺（そろばんの區には，天秤と杠秤（ちきり）もあるすべて陽鑄。作者の藤原國次は京都で代代二百年も續いた鐘作りで一番の名家。度量衡器の恩恵を忘れぬため寄進された。との事です。（以上二つは鈴木久男先生の「ものがたり珠算史」に載っています）。圖二

3. 満願寺（まんがんじ）

京都にもう壹つありました

動物園から少し入つたところにある満願寺です。やはり日蓮宗の大きなお寺です

元祿時代にできた梵鐘で現在のところ一番古い。と思われます。鐘の大きさは同じ位ですが、そろばんは五珠二つ。一珠五つ。二十一桁もありました、他の繪は法性寺とほづ同じようです。實は作者も藤原國次です、しかし五十年近い差かありますので先代かと思われます。圖三

4.安明寺(あんみようじ)

滋賀縣長濱市にあります。鐘の大きさは、京都と同じ位です。

そろばんは五珠二つ。一珠五つ。十五桁、長さ約二十センチ(現代の十五桁そろばんの實物大くらい)。他天秤、槩、曲尺、分銅等が各十やこち位の大きさに浮き出しています、他の區にやはり日、月、七星。雲と須彌山作者はこれも藤原國次です。そしてこの鐘は國次が當寺へ出張してこの場でへ釜を築き作った(出吹)との記録があります。四十七との内小野寺十内の供養のため錢屋藤兵衛が寄進した。と備わつています。

5.法信寺(ほうしんじ)

愛知縣尾西市にあります。眞宗のお寺です。そろばんは、五珠二つ、一珠五つ。九桁、見事なものです。はつきりしています。二十センチあります。作者は名古屋の水野太郎左衛門。この地の有名な和算家であつた淺井淨玄先生の徳を慕い門人たちが寄進したので「報恩の鐘」と呼ばれたそうです。圖五

6.極樂寺(ごくらくじ)

同じ尾西市にあるお寺で、昭和二十年まで實に立派なそろばんのついた梵鐘があつたのです。終戦三ヶ月前に供出されました。しかし十數枚の拓本と一枚の寫眞が残されていました。拓本を計つたら長さ二十六センチもあり、五珠二つ、一珠五つ、二十五桁。現存する五つより一番大きく立派なものだつたようです。このお寺も眞宗です。

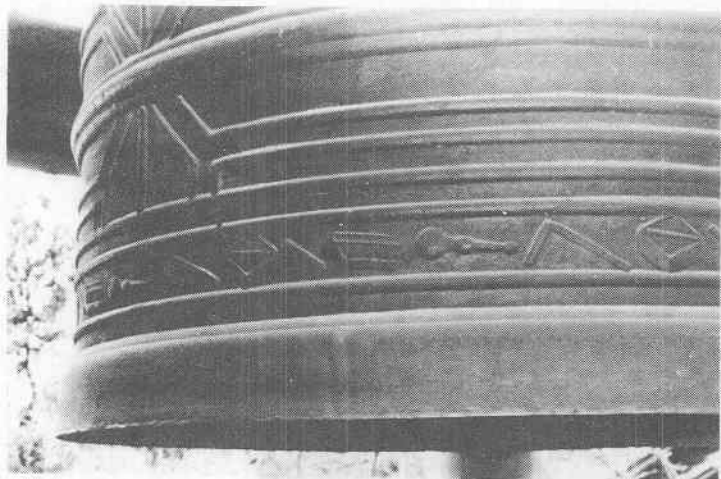
八角の納骨堂には、法然、親鸞、蓮如の三聖人の切分骨が祀られおあり若いご住聽が二十六代とか、大和尚も健在で昭和の始め頃には近所の子供たらにそろばんを教えていた、當時使つた陶製の大そろばん 残つている。圖六

現在までに以上が判明したが、まだ各地にあるかも知れない。



「一覽表」そろばん)

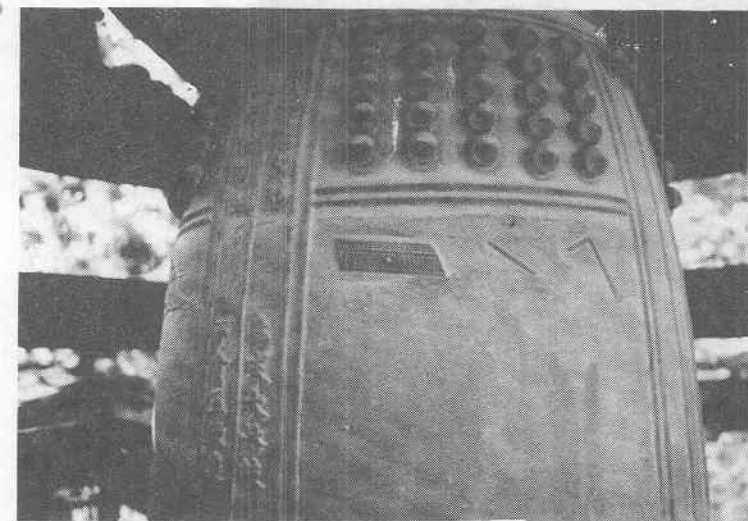
寺名	所在地	鐘の高け	五珠	一珠	桁	長け	幅	紀年	鑄物師	備考
法明寺	東京	180	1	4	6	5cm	2.2cm	享保17年 (1732)	太田駿河守久兵衛 藤原正義	そろばん9丁 重要文化財
法性寺	京都	150	1	5	11	9	3.7	寶曆2年 (1752)	藤原國次 藤原守昌	そろばん一丁 池の間
満願寺	京都	145	2	5	21			元祿16年 (1704)	藤原國次	"
安明寺	滋賀	150	2	5	15	19.5	8.5	寶曆2年 (1752)	藤原國次	"
法信寺	愛知	150	2	5	9	20	9.5	享保2年 (1717)	水野太郎左衛門 政良	"
極樂寺	愛知	115	2	5	25	26	9.5	寶曆4年 (1754)	岡本河内大 正信	現存せず "



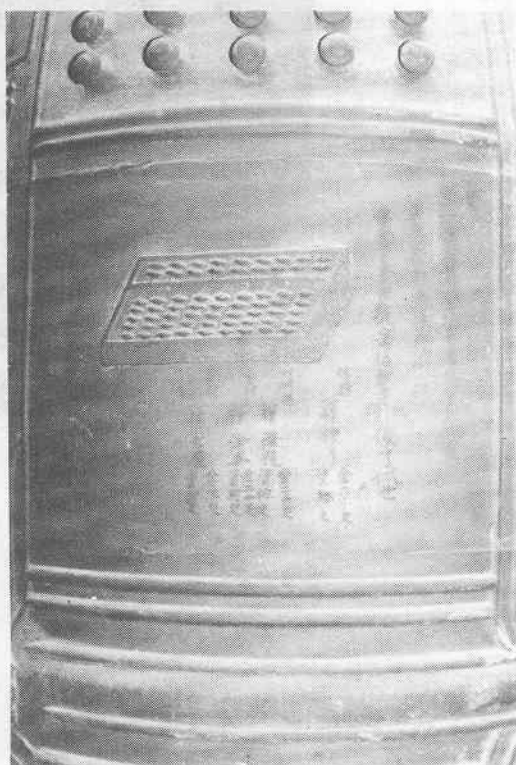
圖一 東京法明寺



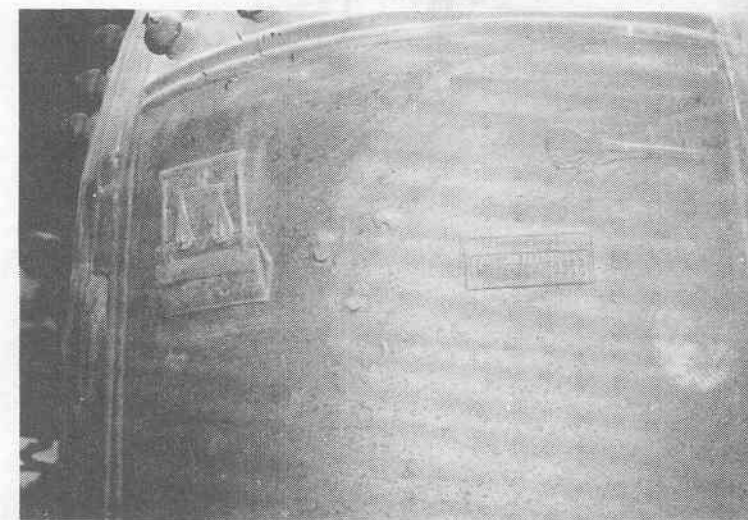
圖二 法性寺



圖三 滿願寺



圖五 法信寺



圖四 安明寺



圖六 愛知縣尾西寺極樂寺

鑄有算盤圖的寺鐘

林五桂翻譯

昭和五十八（1983）年六月，我參加東京算盤資料館落成典禮，並邀請下平和夫教授，同赴東京雜司谷，參觀了法明寺（以鬼子母神堂馳名）的寺鐘。又因為鈴木久男教授談過，京都法性寺也有，所以同年八月，帶學生一起去看了一下，承該寺和尚指點、更探訪了幾處寺院，茲簡述如下。

1.法明寺

東京都新宿區

史載本寺創建於弘仁元（810）年，為歷代源氏祭祖之所，首座寺鐘，是寬永二十一（1644）年所鑄，後因裂損，於享保十七（1732）年重新鑄造；該鐘的下帶（鐘口週圍部份），依序浮鑄有算盤、斗概（註）、升、曲尺、天秤等圖；鐘面鑄有九支算盤，都是上珠一、下珠四、六桁。（有一說稱：這是按照老百姓日常經濟生活的重要程度或迫切程度為先後，予以排列的）。

（註 斗概是將高過升斗量器上邊的^斗物，推離量器用的木棒 圖一

2.法性寺

俗稱猴子寺，屬日蓮宗，原建於鎌倉，約三百年前，遷建至京都。因教宗日蓮上人，曾在鎌倉山中修行，並受過群猴相助，故現在寺內正殿屋頂上，依舊供奉着猴像。

寺內的鐘，略小於法明寺的，其鐘面分四區浮鑄有各種圖案，只有第一區有一支上珠一、下珠五、十一桁算盤及天秤、扛秤。第二區是日月星雲。第三區是須彌山景，第四區是升、曲尺等度量衡圖。鑄者藤原國次，是已世襲二百年之京都首席名鑄工，贈鐘原意，據說是在求世人不忘計量器具的能效云。（以上所述，俱在鈴木久男教授大著「珠算史故事」書中有所記載） 圖二

3.滿願寺

京都尚有一寺，即動物園附近的滿願寺，也是日蓮宗大寺院。其寺鐘是元祿時期所鑄，似是目前最古老的；大小則與他寺的約略相同，但所浮鑄的算盤圖，却是上珠二、下珠五、二十一桁的。其他圖案，則與法性寺鐘相同。鑄者也是藤原，兩寺的鐘，鑄造時間相差五十年，似係出於藤原上一代之手。圖三

4.安明寺

寺在滋賀縣長濱市，鐘的大小，約與京都的相同。

算盤圖是上珠二、下珠五、十五桁的，其長度約二十公分（實際尺寸約與現今之十

五桁算盤同大)，其他如天秤、升、曲尺、砝碼，大小約均為十公分許，另處仍有日月星雲須彌山景等圖。鑄者也是藤原國次，有記錄說他當年親臨此寺，作灶鑄鐘。相傳鐘是錢屋藤兵衛，為紀念四十七忠臣之一，小野寺十內而捐。圖四

5. 法信寺

位於愛知縣尾西市，是真宗寺院，算盤圖是上珠二、下珠五、九桁；鑄得既清晰又美觀，有二十公分長。鑄者是名古屋的水野太郎左衛門，是為懷念有名算學家淺井淨玄的碩德懿行，而由弟子們所捐獻，因此世稱「報恩之鐘」。圖五

6. 極樂寺

本寺也在尾西市，昭和二十（1945）年以前，有一座很精美的算盤圖寺鐘，在戰爭結束前三個月，送給兵工廠改鑄兵器，不過存有十餘張拓本及一張照片，其算盤圖是上珠二、下珠五、二十五桁，自拓本測知有二十六公分長；與現存五個鐘比，大而精緻多了。

本寺也屬真宗寺院，在八角型納骨堂裡，奉祀着法然、親鸞、蓮如三聖人的分骨，年輕的寺主，說是屬第二十六代。老和尚還在，昭和初期，曾集附近小孩來寺學珠算，所用陶製大算盤，現在還有。圖六

迄今所知，臚列如上，不過其他各地，可能還有。

鑄有算盤圖的寺鐘一覽表

寺名	所在地	鐘高度公分	上珠	下珠	桁	長度	寬度
----	-----	-------	----	----	---	----	----

鑄有算盤圖的寺鐘一覽表

寺名	所在地	鐘高度公分	上珠	下珠	桁	長度公分	寬度公分	年代	鑄造者	備考
法明寺	東京	180	1	4	6	5	2.2	享保17年 (1732)	太田駿河守久兵衛 藤原正義	算盤9支 國定重要文化財
法性寺	京都	150	1	5	11	9	3.7	寶曆2年 (1752)	藤原國次 藤原守昌	算盤1支
滿願寺	京都	145	2	5	21	19.5		元祿16年 (1704)	藤原國次	算盤1支
安明寺	滋賀	150	2	5	15	20	8.5	寶曆2年 (1752)	藤原國次	算盤1支
法信寺	愛知	150	2	5	9	26	9.5	享保2年 (1717)	水野太郎左衛門 政良	算盤1支
極樂寺	愛知	115	2	5	25		9.5	寶曆4年 (1754)	岡本河內大掾 正信	不存在